

児童福祉施設に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）は、障害児とその保護者のみを対象として、子育てに関する相談に応じ、必要に応じ助言を行う施設である。
2. 助産施設は、特定妊婦を入院させて、助産を受けさせることを目的とした施設で、助産師等病院に必要な職員のほか、保育士の配置も義務とされている。
3. 児童自立支援施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とした施設である。
4. 母子生活支援施設に入所した児童については、都道府県等は保護者から申込みがあり、かつ、必要があると認めるときは、満20歳に達するまで保護することができる。
5. 障害児入所施設には、感染症や非常災害の発生時において利用者に対する支援の提供を継続的に実施するための「業務継続計画」の策定は、義務付けられていない。

（正答 4）

次のうち、児童期の発達に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 児童期には、ピアグループと呼ばれる排他的でない親密な仲間集団が形成され、その後ギャンググループへと変化していく。
2. 児童期には、友人選択の理由は行動や外的なものから人格などの内面的なものへと変化していく。
3. ピアジェによれば、7、8歳以降に他律的道德性の段階に入っていく。
4. セルマンによれば、児童期は、それぞれの人の視点が多次元的あるいは深いレベルで存在していることを相互に理解する段階である。
5. 小学校に入る時期になると「話しことば」が消失し、「書きことば」の世界に急に転換する。

(正答 2)

乳幼児の基本的な生活習慣に関わる援助に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 1歳以上3歳未満児の保育では、手洗いの際に、手洗いに伴う快さの感覚と意味を結び付けて、その必要性を理解できるように、保育士は根気強く言葉がけをしながら関わるとよい。
2. 1歳以上3歳未満児の排泄に関しては、子どもの気持ちのがのらない場合でも、長い時間便器に座らせていれば排泄することもあるため、じっくり待つ姿勢が大切である。
3. 1歳位から衣服の着脱が始まるが、子どもが「自分でする」と言うことも多いため、その場合、保育士は子どもの様子を見守り、一切手伝わないようにする。
4. 3歳以上児では、一度身につけたと思われる基本的な生活行動が崩れることがある。これは、その必要性を感じられなくなっているためであり、保育士は丁寧に指導をし直すことが必要である。
5. 十分に遊んだ後の満足感があれば、次の活動への期待感を生み出し、片付けの必要性も理解するようになるため、自発的に片付けができるようになる時期まで、援助はせずに、じっくりと待つとよい。

(正答 1)